

文化財を歩く 392

名勝

煙雲館庭園

(宮城県気仙沼市)

文化庁文化財部記念物課

主任文化財調査官

平澤 毅



図1 煙雲館庭園の位置

場を成し、上段に主屋の煙雲館を構えて西向きに園池を地割の中心とした主庭を設け、西側丘陵地斜面から北側、東側にかけて背景林が取り囲んでいます(写真1)。

鮎貝氏と煙雲館

鮎貝氏は、藤原安親(九二二〜九九六)を遠祖とし、応永三年(一三九六)に初代成宗が出羽国置賜郡下長井莊鮎貝に築城して鮎貝氏を名乗り六代にわたって居城としましたが、伊達晴宗(政宗の祖父・一五一九〜一五七八)の家臣となり、伊達氏の岩出山城移封に追従して御一家筆頭の家格を与えられました。二代陸奥仙台藩主

忠宗(一六〇〇〜一六五八)のときに一千石を拝領し、現在の地に居館を構えて代々藩の要職を務め、幕末には泊浜唐船番所の海防警備を担いました。幕末期の盛房(一八三四〜一八九四)は戊辰戦争で大隊長として従軍し、その長子盛

煙雲館庭園の立地

煙雲館庭園は、宮城県北東沿岸部、北上山地南部の三陸リアス式海岸が続く気仙沼湾西岸の丘陵部に立地して、東南方には大島、南方には岩井崎の勝景を望む位置にあります(図1)。この地は仙台藩上級家臣鮎貝氏の旧居館で、その庭園は仙台藩茶道頭、石州流清水派の二世動閑による寛文年間

(一六六一〜一六七三)の作庭に始まるものと伝えられています。あるいは、後に有備館(史跡及び名勝旧有備館及び庭園、昭和八年(一九三三)指定、宮城県大崎市)の作庭に携わった三世動閑によって元禄五年(一六九一)頃までに地割の大意が整えられたものとも考えられています。敷地は丘陵の南向き中腹部を二段に造成して平

明治三十三年(一九〇〇)に漢詩人の村岡恭一郎(一八六一〜一九〇二)が著した『煙雲館記』によれば、館号を記した扁額は国学者・歌人の賀茂季鷹(一七五四〜一八四一)の揮毫と伝えることから、遅くとも江戸時代後期には鮎貝氏の館に「煙雲」の名が付けられていたことが窺われます。「煙雲」には、幽邃宏大な園林の優れた風致とともに、諸葛孔明の故事から、太平の世にあって武略に富む鮎貝氏の落ち着きどころとし、天恩に報いて祖徳に応えながら、臥龍にも似た地勢の丘陵に暮らし楽しむ風趣が込められています。

煙雲館庭園の構成

主庭は、東西約三〇m、南北約二〇mの園池の西寄りに、北西―南東の長軸で約一六m、北東―南西の短軸で約一四mを測る円形の大きな中島を配して地割の要としています。中島は高さ四m余りの大きな築山に、景石護岸と立石の配石、裾部のサツキ、中腹のクロマツ、頂部のドウダンツツジが景趣を成して、さらに園池の西側と南側には高く築山の連なりを巡らせ、カエデ類が彩りを添えています。また、園地北岸のシダレイトスギは、主屋から望む右手斜面に水墨画のような風情を印象づけています。



写真1 主屋・煙雲館から西向きに臨む主庭



写真2 主屋・煙雲館

かつての主屋は江戸時代中期に焼失し、今の主屋(写真2)はその後の仮普請として幕末期に再建されたものですが、中島と背景林に臨む西側に奥座敷と表座敷、気仙沼湾を望む南側に中座敷と表座敷を向け、表座敷を觀賞の首座として、庭園の地割とよく調和しています。各座敷の縁側にはそれぞれ平場を設けて飛び石を打ち、西側には両脇にアカガシの古木二本を添えながら大きな飛び石を中央に据えて中島を正面に臨み、南側台地の縁辺に神輿石を置いて気仙沼湾の宏大な眺望を楽しむ標としています。

成三十年二月十三日、煙雲館庭園は名勝に指定されました。平成二十三年三月の東日本大震災で、高台に位置する煙雲館庭園は津波による直接の被災を免れましたが、ともに歴史や伝統を刻んできた尾崎地区は甚大な被害を受け、貴重な史料の多くも流失しました。弘化二年(一八四五)に第一三代藩主・伊達慶邦公の参勤交代の折り、その参府供登の命を受けた若年寄・鮎貝兵庫盛成(前掲、盛房の父)の成した諸事万端を、鮎貝家の家老・芦立三左衛門が記した手控の原本も失われてしまいました。芦立家に大切に伝えられてきたその史料を、芦立光之さんが翻刻し、三陸新報に連載したのは平成十四年でした。それは、若老の仕事とそれを支えた裏方の労苦を描いたもので、煙雲館主の鮎貝文子さんは、その史実の描写に感動を覚えました。しかし、尾崎地区に伝えられてきた豪華絢爛な大名行列の再現も失われたいま、これを将来へ遺し伝えたいとの深い思いから、この五月に煙雲館庭園文化保存会の下で刊本として発行されました。名勝指定とともに、改めて煙雲館庭園がそうした先人の文化を永く伝えてゆく拠り所ともなるよう願って。

守り継ぐ文化の願い
江戸時代前期に端緒を發して近代に至るまで鮎貝氏の館に維持され、主庭の大きな築山を成す中島を備えた園池と背景林が成す幽邃と気仙沼湾への眺望が成す宏大を兼ね備えた庭園として芸術上及び觀賞上の価値が高いことから、平